

地域の人材と仕事結ぶ



NPOが三鷹市内で開いているパソコン教室。同じ世代が教えることでシニアにもわかりやすく、実践的な内容になっている

なっています」とNPO代表理事の久保律子さん(61)。

働く意欲を持ったシニアと人材を求める企業や団体を結ぶ「マッチング」も柱の事業。NPO側から行政に働きかけて新たな仕事も数多く創っていることが大きな特徴だ。

シニアSOHO 普及サロン・三鷹

東京都三鷹市



東京にはシニアの就業支援に目覚ましい実績を挙げている団体がある。三鷹市を拠点とするNPO法人「シニアSOHO普及サロン・三鷹」だ。

シニアがシニアを教えるパソコン教室を年中、ほぼ毎日開いているほか、行政と連携して地域が必要なサービスを請け負う「コミュニケーション・ビジネス」を積極的に展開。NPOの登録会員数1700人、平均年齢は65歳強で、昨年度の年商は1億円を超えた。

地域ビジネスの一例が5年目を迎えたスク

ールエンジニアス(学校安全推進員)事業。三鷹市から年間2700万円を受注し、市内の小学校15校に朝夕4時間ずつ、通学路で子供を見守る推進員各1人を派遣している。

無償のボランティアは行わないというのが活動の基本原則。推進員には東京都の最低賃金額に応じて報酬を支給する。「少額でもお金を受け取ることで、やる側には責任感が生まれる。日常的に子供と接することで地域への思いも強まり、事件や事故を防ぐ抑止力に

企業の社内IT化に取り組んだ元会社員はコンピュータリソースの保全などに活用。たまたま会員の中にゴルフ場勤務経験者がいたことから、小中学校の芝生管理も始めた。久保さんは「地域にはいろんな能力を持った人が埋もれている。時代の流れやニーズをつかむことで、何でも仕事になる」と語る。

シニアの就業支援やネットワークづくりを成功させるコツについて、同NPO創設者の堀池喜一郎さん(70)は「人と人をつなぐコーディネーター能力やプロデュース能力を持つ人材が大切」と助言。「これからは、元気なシニアが地域の中で75歳以上の高齢者をケアするような事業や取り組みが求められるのでは」と予測している。